

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

田辺市立新庄小学校
教諭 山崎 浩平

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について修養を積み、教員としての資質能力を高めるとともに、今日的教育課題解決のための研修・研究を行い、その成果を広く学校現場に還元することを目的とし、実施されている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012、小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修期間中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修への参加等をとおして、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

修養については、研修講座や各種トレーニング研修をとおして、これまでの実践を省察することで、自身の課題や教員としてめざす姿を明確に捉えることができた。授業力向上トレーニングでは、教材分析や教材研究についての新たな知識や技術を吸収でき、授業改善のための様々な視点を得ることができた。学校組織開発力向上トレーニングでは、学級経営、さらには学校経営に関することについて学んだ。また、自分達の世代の教員には、ミドルリーダーとして、広い視野に立った力量の向上が求められていることや、学校運営において重要な役割を担ったり、若手教員への助言・援助など指導的役割を担ったりすることも期待されることから、より一層職務に関する専門知識や幅広い教養を身に付けることが求められていることを学んだ。

研究では、自身のこれまでの実践から見えた課題を基に、小学校国語科における課題を設定し、先行研究等を参考にしながら、理論に基づいた指導法の在り方を検討していった。そして、その指導法を用い、実際に所属校にて提案授業を行うことで、成果と課題を見出すことができた。

今後は、ミドルリーダーとしての役割を常に意識し、この1年で学んだことをより多くの同僚に広めると共に、学び続ける姿勢を忘れず、自身の教員としての資質能力の向上に努めたい。所属校や所属地域の教育力の向上に貢献できるよう、より一層研鑽を重ねたいと思う。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間をとおして行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等の作成、模擬の授業実施	・授業・研修研究計画を立て、第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析 ・教育センター学びの丘研究報告会で発表	・研究報告書、資料の作成
修養	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」</div> <ul style="list-style-type: none"> ■「授業力」「組織開発力」「研修力(学び続ける力)」向上トレーニング ■専門性の向上を目指す専門研修講座等受講 ■初任者研修、10年経験者研修等聴講 ■学びの丘指導主事等による研修員研修 				

図 研修の概要